

横倉山生物総合調査事業 魚類調査

2020年度調査結果についての中間報告

高橋弘明・近藤英文（株式会社相愛）・阪本匡祥（日本高度紙工業株式会社）

◆調査地点

仁淀川本流2地点、坂折川3地点、市ヶ谷川1地点の計6地点を設定した。



◆調査方法・数量

天候とスケジュールの都合で当初計画した数量通りには調査を実施出来なかった。特に仁淀川本流はほとんど調査出来ていないため、今後詳細な調査が必要。

調査方法	仁淀川		坂折川			市ヶ谷川
	N1	N2	S1	S2	S3	I1
潜水目視			○	○	○	
潜水タモ網						
投網12mm			○	○		
投網18mm				○		
定置網			3枚	3枚		
網かご			2個	2個	○	
セルピン						
タモ網			○	○	○	
釣り	○	○	○	○		○

◆調査実施状況

調査年月日	仁淀川		坂折川			市ヶ谷川
	N1	N2	S1	S2	S3	I1
2020年5月20-21日	○	○	○			
2020年6月29日		○		○		
2020年7月27-29日			○	○	○	
2020年9月26日				○		○
2020年9月29日				○	○	



投網による調査状況

タモ網による調査状況

定置網による調査状況

◆調査結果

5目10科22種の魚類の生息を確認した。このうち、8種が環境省、県のRDB掲載種。2種が県指定希少野生動物植物。

出現種				仁淀川		坂折川			市ヶ谷川	RDB等指定状況		
目	科	和名	学名	N1	N2	S1	S2	S3	I1	高知県	環境省	県条例
ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	<i>Anguilla japonica</i>			●		○		NT	EN	
コイ	コイ	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>	○		○	○					
		ギンブナ	<i>Carassius sp.</i>			●				NT*1		
		ウグイ	<i>Pseudaspius hakonensis</i>			●	●	○				
		タカハヤ	<i>Rhynchocypris oxycephala jouyi</i>					●				
		ムギツク	<i>Pungtungia herzi</i>			●	●					
		カマツカ	<i>Pseudogobio esocinus</i>			●	●					
		カワムツ	<i>Nipponocypris temminckii</i>			●	●	○				
		オイカワ	<i>Opsariichthys platypus</i>			●	●					
	ドジョウ	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>				●			CR+EN	VU	
	トサシマドジョウ	<i>Cobitis sp. BIWAE type D</i>				●			CR+EN	VU	希少野生動物植物	
	ヒナインドジョウ	<i>Cobitis shikokuensis</i>				●			CR+EN	EN	希少野生動物植物	
ナマズ	ナマズ	ナマズ	<i>Silurus asotus</i>				●					
	ギギ		<i>Tachysurus nudiceps</i>				●			DD		
	アカザ	アカザ C2種	<i>Liobagrus reinii</i>				●	●		DD	VU*3	
サケ	アユ	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>			●	●	○				
	サケ	アマゴ	<i>Onchorhynchus masou ishikawae</i>	●		●			○	CR+EN*2	NT	
スズキ	ドンコ	ドンコ	<i>Odontobutis obscura</i>			●						
		シマヨシノボリ	<i>Rhinogobius nagoyae</i>				●					
		オオヨシノボリ	<i>Rhinogobius fluviatilis</i>				●					
		カワヨシノボリ	<i>Rhinogobius flumineus</i>			●	●	○				
		トウヨシノボリ	<i>Rhinogobius sp.</i>			●						

●：標本が得られた種 ○：標本が得られていない種

*1：フナ在来個体群として。*2：アマゴ（在来亜種）として。ただし、調査範囲に在来の個体群が存在するか不明。*3：「アカザ」として。

2020年度調査で確認された魚たち



ニホンウナギ



ギンブナ



ウグイ



タカハヤ



ムギツク



カマツカ



カワムツ



オイカワ



ドジョウ



ナマズ (写真は幼魚)



ギギ (写真は幼魚)



アカザ (C2種)



アユ



アマゴ (坂折川産)



アマゴ (仁淀川本流産)



ドンコ



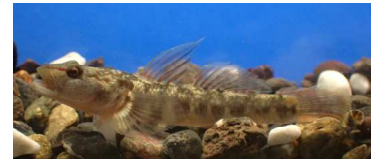
オオヨシノボリ



シマヨシノボリ



トウヨシノボリ



カワヨシノボリ

トサシマドジョウ、ヒナイシドジョウの2種が同所に見られる奇跡



トサシマドジョウ



ヒナイシドジョウ

トサシマドジョウは土佐湾流入河川の一部にのみ生息する高知県固有の純淡水魚。ヒナイシドジョウは高知県西部と愛媛県西南部のみに生息する四国固有の純淡水魚。トサシマドジョウがこの地点に生息することは予測していたが、ヒナイシドジョウのこの地点での確認は想定していなかった。ヒナイシの確認は仁淀川水系全体で3例目。

トサシマドジョウは河川中流域の砂分の多い砂礫底の流水環境に生息し、冬は河床の砂礫に潜ってじっとしているが深く潜ることはない。一方、ヒナイシドジョウは伏流水が豊富で河床に小砂利が厚く堆積した河川上流域の礫底に生息し、秋～翌年春までを伏流水の中に深く潜って越冬する（網やスコップで掘り返した程度ではまず見つからない）。流呈分布や生息環境が異なるこの2種が同所に生息することは通常あり得ない。**仁淀川水系は唯一、トサシマドジョウとヒナイシドジョウの2種が同一水系内に分布することが知られていたが、これまで同所から発見されたことはなかった。今回坂折川ではこの2種が同所に生息することが初めて確認された。**現場は写真の通り、ヒナイシドジョウの生息環境としては極めてイレギュラーで、通常はトサシマドジョウの生息環境となるべき場所である。



2種が同所的に見られる左岸側のワンド周辺。